私のおすすめ

刻まれた生命記憶

図書

大学院音楽研究科修士課程 音楽教育学専攻 2年　武内 理恵

みなさんは、からだに刻まれた記憶が、何かのきっかけで、ふと思い出されるような経験はありますか。著者、三木成夫先生は、日々を通してからだに入り込んだ記憶、遠い祖先から受け継いだ記憶を「生命記憶」と呼んでいます。

三木先生は、専門が解剖学・生物学でありながら、保健・保育・教育、さらに、芸術・哲学・思想と多岐にわたる分野に貢献されました。この本は、わたしたちの生命記憶に関するさまざまな世界が、平明に書かれています。

味覚にまつわるエピソードには、椰子の味、玄米の味、母乳の味が出てきます。懐かしさにハッとし、自分の祖先はポリネシアか…とつぶやいた椰子の味。副食の嗜好をまるで変えてしまった玄米の味。そして、突如、口にすることになった母乳は、味も匂いもない、からだの細胞に溶け込む感触だと表現します。

この本から少し離れますが、先生の著書から教わったことのひとつが、幼い子どもの“なめる”行為は、舌を通して、もののかたちを記憶しているということです。その感覚が知覚の基盤を固め、感受の記憶を呼び起こすことを知りました。

さて、『胎児の世界』では、受胎32日目から一週間にわたる、胎児の顔の変身のさまが展開されます。それは、あたかも生物の進化の過程のように、魚、両生類、爬虫類、やがて哺乳類という動物のおもかげを漂わせています。このわずか数日間に、目、鼻、口、耳の感覚器官が形づくられますが、魚の時代の鰓孔は耳孔や周りを縁どる耳たぶに、一見、ひれのような手は五本の指へと変わっていきます。一億年をかけた、脊椎動物の海から陸への上陸を、胎児は一瞬のうちに身をもって再現するかのようです。そして、60日目の写真には、瞼を閉じ、手を顔に近づけて、眠る胎児の姿がありました。

先生の職場だった東京藝術大学での「保健」の集中講義、最終日に、胎児のスライドが映し出され、胎内で聞く母親の血流音がステレオから響きます。若い学生たちはどのような思いでこの音を聞いたのでしょう。

誰もが、からだとこころに持つ「生命記憶」に思いを馳せてみませんか。

『胎児の世界：人類の生命記憶』
三木成夫 中央公論新社 2002
（中公新書）請求番号●J99-209

たけうち　りえ　●　今朝、大学の門を入ると金木犀の甘い香りが立ち込めており、今年もそのような季節であることを思い出しました

オイディプス王～悲劇の余韻～

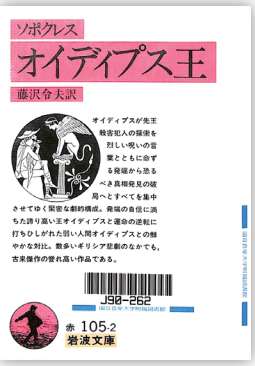
図書

演奏・創作学科鍵盤楽器専修（ピアノ）4年　北原 義嗣

幼い頃から神話に興味を持っていた私にとって、ギリシャ神話の世界観にも関心を持つことは自然なことだったのかもしれない。当時、ハリウッドがギリシャ神話を題材にした映画を多く制作していたこともちろん影響しているが、はじめは単純に、登場する英雄と魔物・怪物との闘い、神々が繰り広げる物語が好きだったのだと思う。オリュンポス十二神を中心に読んでいた私が、大学に入学後、少し大げさだが、神話だけでなく古代ギリシアで生まれた概念そのもの、またその概念と自分の専攻である西洋音楽との関連性について考え始めていた。そのようなとき出遭った本が今回紹介する『オイディプス王』である。ギリシャ悲劇の最高傑作と謳われるこの作品は、悲劇作品ならではの筋立ての驚き、同時に知的な刺激に溢れ、紀元前427年から今なお世界中の人々に読み継がれている。

作品の主人公はオイディプス。舞台は古代ギリシアにあった都市国家の一つであるテバイ。テバイはスフィンクスという怪物による危難に悩まされる日々を送っていた。そこへ放浪の旅をしていたオイディプスがやって来るなり、見事スフィンクスに打ち勝ち、テバイの国を救うことに成功する。英雄と称されるようになったオイディプスは、殺害されたため不在であったテバイの王位につき、先王の妃イオカステを妻とした。彼らの間には四人の子女が生まれ、平和な日々を送るようになる。しかし、テバイの国には、再び大きな災難がもたらされた。疫病の広がりと不作である。これらにより、かつての心穏やかなテバイの日々は失われてしまう。王としての責務を果たすため、オイディプスは神託を授かることになるが、その神託によって、疫病と不作が、テバイ国の亡き先王の殺害に関与していることが判明する。亡き先王を殺害した者がテバイにいる限り、この災難は終わらないとのことだ。これを聞いたオイディプスは殺害者を必死に探すことになるが…

英雄と称され、一国を支配したオイディプス、その生涯の最後を描いたこの作品は、人間にとっての「運命」について考えさせてくれる。人の人生は運命に定められているのか？運命を淡々と受け入れて生きていくことが最善なのか？運命は変更不能なのか？運命を超えて人生を切り拓くことが出来るのか？様々な問いが余韻となって心に残る作品である。



『オイディプス王』ソポクレス著　藤沢令夫訳
岩波書店1999（岩波文庫）請求番号●J90-262

きたはら　よしつぐ　●　新型コロナウイルスの流行により私の日常生活も大きく変化しました。本番が少なくなった今、文学などの異分野の芸術に意欲的に触れ、自身の感性を少しでも育てたいと思っています。